

平成18年度全国地学教育研究大会：
日本地学教育学会第60回全国大会静岡大会の報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 坂田, 算浩 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00024819

平成18年度全国地学教育研究大会 日本地学教育学会第60回全国大会静岡大会の報告

坂 田 算 浩

去る平成18年8月18日(金)～21日(月)まで、静岡大学において、平成18年度全国地学教育研究大会日本地学教育学会第60回全国大会静岡大会が静岡県地学会の共催で開催された。主催は日本地学教育学会であるが、日本地学教育学会からの申請に基づいて共催とすることになったものである。今回で60回を数える全国大会だが、静岡で開催されるのは初めてであった。

今回の大会は、18日と21日に巡検が行われ(掛川と伊豆)、19日と20日に研究発表等が実施された(図1, 2)。

日	時刻	行 事	会 場 (大学会館)
19 日 (土)	8:30	受 付	大学会館 2階入口
	9:00	開 会 行 事 学術奨励賞授与式	A会場
	9:30	ジュニアセッション	A会場
	10:30	特別セッション	A会場
	11:00	ポスターセッション ブース展示交流	D会場 E会場
	12:30	昼 休 み	
	13:30	パネルディスカッション	A会場
	14:30	研 究 発 表 I	B会場：小・中 C会場：高・大・一般
	17:30	懇 親 会	食堂
	18:00 20:00		
	20 日 (日)	9:00	研 究 発 表 会 II
12:00		昼 休 み	
13:30		記 念 講 演 会	A会場
15:00		閉 会 行 事	A会場
15:30			

図1. 大会日程.

大会テーマは、「地学教育の再構築～身近な生活の中から科学リテラシーを育成する」で、海外（中国）からの研究発表を含め、43件の研究発表、10件のポスター発表、3件のジュニアセッション（高校生の研究発表）、5件の展示が行われた。

また、静岡県の御出身であり筑波大学名誉教授の小林 学氏、文部科学省教科調査官の清原洋一氏、国立教育政策研究所の五島政一氏、日本地学教育学会会長の下野 洋氏によるパネルディスカッションが行われ、「地学教育の60年の変遷と未来への期待」と題して、次期学習指導要領の改訂作業はどのような方向性があるのかを中心に、過去と現在と未来に関する鋭い議論が行われた。

さらに、第60回の記念講演として、アメリカ合衆国ウイスコンシン州のエッジウッド大学から第一線で活躍されているエミー・シーベル博士を招待し、アメリカにおける最新の地学教育・環境教育の現状や問題点を発表していただいた。アメリカの地学教育・環境教育を中心とした教育改革が、日本にとっても興味深い内容であることを認識できた。

このような大会運営に、大会実行委員長の熊野善介氏（静岡大学教育学部）他、大会実行委員にも多くの静岡県地学会会員が関わり、その業務をサポートした。特に、18日と21日の巡検会は、静岡県地学会会員の案内で実施された。

全日程の中から、静岡県地学会の会員の発表等について報告する（敬称略）。

1. 特別セッション

(1)「蛍光X線分析による凡方遺跡・東三洞貝塚出土黒曜石の産地推定」高橋 豊（富士常葉大学、静岡県地学会東部支部長）：遺跡出土黒曜石の蛍光X線分析による成分元素組成によって、黒曜石原石の原産地を推定する方法について、朝鮮半島南海岸地域の考古遺跡から出土した資料を例に興味深いお話をしていただいた。

2. ポスターセッション

(1)「生痕化石フィコサイフォンの謎：身近な古生物教材として」延原尊美（静岡大学）：海生層の露頭に頻りに産出する生痕化石「フィコサイフォン」によって読み取れる、地層の堆積過程について紹介し、理科教材としての可能性を示した。

3. 研究発表

(1)「博物館における地学に関する小・中学生向け体験イベントの調査」楠 賢司（静岡大学）：博物館における地学の体験イベントの内容を調査し、“みる”“つくる”“さがす・とる”に分類して示した。

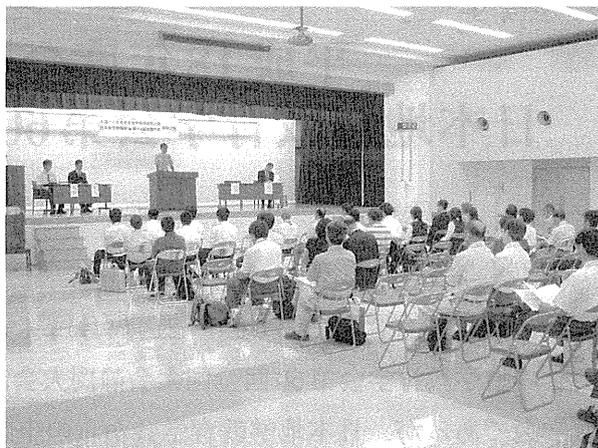


図2：開会式（静岡大学大会館）。

(2) 「惑星の近日点移動角及び天体（太陽）の表面付近をかすめる星光の屈折角を導く初等的新方法」服部哲雄（世界社）：惑星の近日点移動角及び星光の屈折角の算出法について考察・検討をし，報告した。

(3) 「地層と化石から御前崎の隆起に迫る－御前崎海岸と牧ノ原台地古谷層の観察会での実践－」佐藤弘幸（静岡聖光学院中・高等学校）：御前崎海岸で実施した野外観察会で，地形，生物，化石，テクトニクスを結びつけてトータルに「地学」を理解ができるよう企画した実践について報告した。

(4) 「探究的な活動を促す実習についての試み－エラトステネスの測量の実習を通して－」坂田算浩（静岡県立静岡高等学校）：実験実習を指示に沿って行わせるのではなく，実験実習の方法を生徒自身にデザインさせることにより，探究的な活動を促す実践について報告した。

(5) 「静岡アースシステム教育教師教育プログラム－静岡大学プログラム－」熊野善介（静岡大学）：質の高い授業作りをするためにどんな支援が必要なのかを明らかにするために，授業研究，野外での地球システム教育を複合的に絡めた研修について報告した。

4. 展示

(1) 「静岡県の海岸砂」松本仁美（静岡市立富士見小学校，静岡県地学会中部支部長）：下田市白浜海岸，西伊豆町宇久須海岸，沼津市千本浜海岸，静岡市清水三保真崎海岸，牧之原市静波海岸，御前崎市浜岡砂丘，浜松市中田島砂丘の計7箇所の海岸の砂を解説・展示。また，参加者にお土産としてサンプルを持ち帰ってもらえるようにした。

5. 巡検

(1) 18日（金）Aコース，前弧海盆の海底探検（掛川地域の鮮新－更新統の化石相をさぐる）；案内者，延原尊美（静岡大学）：掛川地域に分布する鮮新－更新統掛川層群の堆積相や，貝化石・生痕化石を観察し，堆積過程や古生態の復元を体験した（図3）。



図3：掛川市板沢（土方層）。



図4：西伊豆町 堂ヶ島（白浜層群）。

(2) 21日(月) Bコース, 伊豆の地質調査;案内者, 藤井伝一・高橋 豊(富士常葉大学, 静岡県地学会東部支部長)・浜田 俊(加藤学園高校)・佐藤弘幸(静岡聖光学院中・高等学校): 縄地鉍山跡で鉍石採集をした後, 堂ヶ島, 黄金崎で白浜層群および第四紀の火山碎屑岩等を観察した。(図4) 巡検を通して伊豆になぜ金銀鉍の鉍石ができたのかを考察していった。最後に土肥金山を見学した。

以上のように, 多くの会員が発表・運営に関わった。また, 静岡県地学会で作成した「絵はがき地学散歩: 静岡県の地学景観」と「絵はがき地学散歩: 静岡県の災害」を日本地学教育学会で購入してもらい, 参加者にお土産として持ち帰ってもらった。さらに, 展示ブースでは静岡県地学会発行の書籍や静岡地学のバックナンバーの販売も行われた。

今回の大会を通して, 多くの方に静岡県地学会の活動の一端を知っていただけるよい機会ともなった。